

男女共同参画社会をめざして

HARMONY PLAZA

ハーモニー広場

vol 36 2005

特集

人間だから

知の最前線を担う
女性研究者たち



知の最前線を担う女性研究者たち

日本有数の知能が集まるつくば研究学園都市。ここには男性研究者だけでなく、それぞれの分野で独自の研究を続ける多くの女性研究者たちがいます。

海から見つめる 生物のつながりと地球環境

「島根県にある宍道湖しんじこの淡水化計画が持ち上がったときに、シジミに目をつけました。従来、二枚貝が環境に影響を及ぼすことはないと考えられていましたが、調査したところ、海水と真水が混ざり合う汽水域に棲むシジミなどの二枚貝が、水の浄化に大きな働きをしていることがわかりました」と語るのは独立行政法人産業技術総合研究所の研究者、山室真澄さん。それまでの常識を覆した山室さんの研究は、世界に注目されると同時に、宍道湖・中海の淡水化凍結につながる研究となりました。

現在進行中の研究テーマは、亜熱帯の海域に特徴的なサンゴ礁、海草藻場、マングローブ林といった生態系を、相互作用のある複合的な生態系として捉



独立行政法人産業技術
総合研究所 研究員
山室 真澄 さん
(やまむろ ますみ)

Profile

1960年生まれ。理学博士(東京大学大学院理学系研究科地理学専門課程、東京大学海洋研究所海洋生化学部門)。91年に工業技術院地質調査所に入所。12歳の長男と8歳の長女の母親でもある。



特集

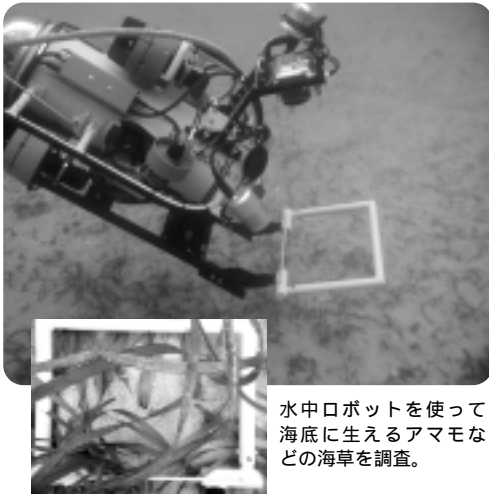
人間だから

え直し、それぞれの関係や開発が与える影響などを研究しています。

「人間はあらゆるものを水に流してききましたが、海や湖沼などの水辺のことを地球規模で考えなくてはいけない時期に来ているんです」

女性や主婦の視点で 次世代に役立つ研究をしたい

「研究を続けていくうちに、自然の中に浄化作用があることもわかってきました。それ以上に人間が自然に大きな負荷を与えていることも自覚させられました。例えば家庭における廃油やシャンプーなどの界面活性剤の問題。幸いなことにこの研究所には、『主婦博士』もたくさんいますから、情報を交換しながら、バクテリアで有機分解を行うシ



水中口ポットを使って海底に生えるアマモなどの海草を調査。

ャンプーを作ったんです」

環境に優しいそんなシャンプーを毎日使っているという山室さん。子ども二人を持つ母、主婦として家庭で行っていることから、意外な研究のヒントがみつかることもあるといいます。

「グローバルな視点を持ちながら、身近な人たちに役立つ研究や、十年後二十年後の子どもたちのためになる研究をしていきたいですね」

女性研究者が頑張れる 環境づくりを目指して

「女性研究者が研究生活を長く続けていくためには、男性研究者にはない困難な状況が伴います。出産や子育てなどで研究が中断してしまい、研究を断念したり、研究という仕事を諦めなくて



沖縄の海で小舟に乗り込み調査現場に向かう。

はならない場合も多いんです」

山室さんは東京大学大学院を卒業後、この研究所の前身である通商産業省工業技術院地質調査所に入所。その時、学生結婚しており、子どもができて研究が続けられると選んだのが、つくば研究学園都市の研究所でした。

「職住が近接して、保育施設も充実しているなど、女性が研究生活を送る環境が整っていたから」という山室さん。二〇〇一年に産業技術総合研究所として統合された際には、ここで働く女性研究者たちの提言で、研究所内に夫婦どちらかが病気をしたときや、年度替わりで保育所が休むときなど、一日、二日の短期でも子どもを面倒を見てくれる保育施設ができました。

「業績制が強まって子育てなどで男性と比べてハンデがある女性研究者が減る傾向にある。だからこそ女性研究者が働ける環境が整った研究所があることを、もっと多くの人に知ってほしいんです」

彼女も参加する産業技術総合研究所「女性研究者の会」では、学生に向けての見学会を行うなど、山室さんたちに続く女性研究者を増やす活動も行っています。

現在は、まだ子どもたちに手がかかり、長期にわたる海洋での研究を控えています。ですが、やがて子どもたちが成長したら、再び海のフィールドに全力で向かい合いたいと語る山室さんです。



水中の様子を調べる。自ら潜水することも研究には欠かせない。



国際会議での発表も大事な仕事。

築一〇〇年以上の古民家を拠点に 里山の暮らしを研究



里山建築研究所 研究員 居島 真紀さん
(いじま まき)

衣食住から始めた 女性たちの研究生活

筑波山が間近に迫り、のどかな田園風景が広がるつくば市神郡かんごおり。国土交通省「日本の道百選」に選ばれた、つくば

道「沿いに並ぶ古民家のひとつが、居島さんたちの研究所です。

つくば市の研究所といえば、最新の機器を駆使して科学の最先端を極める研究所を想像しがちですが、彼女たちは、江戸時代末期に建てられた土蔵造りの建物を借りて自分たちで改修し、その名



「つくば道」沿いに並ぶ古民家を利用した研究所

も「里山建築研究所」と名付けた手づくりの研究所を拠点としました。
現在、スタッフは設計士でもある女性三人。男性が多数を占める建築の世界で、女性が主体になった研究所は珍しい存在です。なおかつ彼女たちは、「里山」にこだわり、筑波山周辺に多く残る古民家の再生や木造住宅の設計を行いながら、自然に根ざした里山の暮らし方や、手づくりを基本とした生活手法を探る

Profile 居島 真紀さん

1970年生まれ。東京学芸大学を卒業後、筑波大学芸術専門学群建築デザインコースに入学。卒業後、設計事務所を経て、里山建築研究所の設立に参加。現在は里山建築研究所設計室代表。



ています。

「格子越しによくお年寄りが声をかけてくれるんです。この間はご近所のおばあさんからジャガイモをいただきました」というのは里山建築研究所の居島真紀さん。そんないただきものは、寿司米で知られる地元の「北条米」や、自分たちで作っている畑の作物と共に「ひるけ 昼餼」の材料となります。

「この家を直したときにまず作ったのは研究スペースではなくて、みんなで料理ができる土間のキッチンでした」

この研究所は古民家や里山の研究で知られる筑波大学の安藤邦廣教授（大学院人間総合科学研究科・芸術学系）が設立。教え子の居島さんたちは、研究の拠点を都市ではなく実際の田舎に移し、今まで少なかった日常生活を通じた女性の視点から、建築のあり方や里山の生活を見つめています。

日々の研究と生活は 切り離せないもの

「つくば市に長く住んでいながら、筑波山をじっくり見たことがなかったんです。ここに来てはじめて筑波山の美しさや四季の変化、豊かな里山の暮らしがあることを知りました」

居島さんは富山県の出身。屋敷林に囲まれた古民家が点在する礪波平野

で生まれ育ちましたが、その当時は伝統的な木造民家や田舎暮らしに特別な関心は持っていませんでした。しかし、建築を学ぶうちに気づかされたのが、近世の民家には、それまでの疑問に答えてくれるヒントがたくさん詰まっていたことです。

「なぜ、故郷の人たちが家を大切にするのか、その理由がわかってきました。伝統的な民家にはその土地の文化や生活、自然と切り離せない知恵が詰まっており、自然素材の家がいかに環境に優しい建物であるかを教えられました。しかし、そんな民家が急速に失われていく現状がある。じっくり時間をかけて研究するテーマだと思いました」

そこで行き着いたのが、単なる工業製品の家ではなく、人間の生き方や仕事、周囲の自然を反映するものとしての家



炊事も研究所の日課。手づくりのキッチンで。

に住みながら、建築のあり方を追求すること。

「将来的には染めや織りもやりたいんです。理想は設計の合間に機を織ったり子育てをすること。衣食住をできるだけ自分たちで賄いながら、その中で女性の生き方も考えていきたいですね」

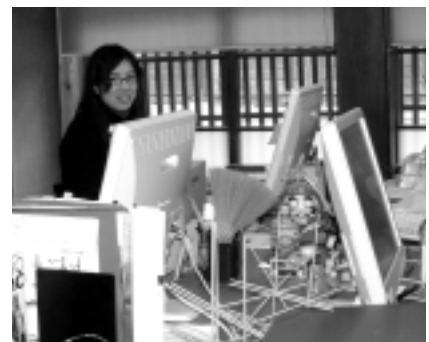
「何事も焦らずにじっくり、ゆっくりに基本」というモットーどおり、日々の生活に基づいた地道な研究を続けていくという居島さんたち。デザインや機能本位の家づくりから、生活や環境を見据えた女性の視点が生かされた家づくりへ。そんな彼女たちの発想は、これからの建築に新しい方向性を示すだけでなく、農村風景の保全や町の活性化につながるなど、地域の大きな刺激ともなっています。



あたたかい日は、縁側で一息。



再生した古民家内部。



研究員の一人、酒井さつきさん。

男性研究者に比べて少数派の女性研究者。

結婚、子育てに苦勞する女性研究者たち

研究者とは大学の課程を修了したか、同等以上の専門知識を持つた人が、大学や企業、非営利団体、公的機関などで、特定のテーマを持って研究している人をいい、大学院博士課程の人も含んでいます。

人文・社会科学を含めた女性研究者は年々少しずつ増加しており、平成四年に四万九千人、七・九%だった女性研究者が、平成十五年には八万九千人となり、研究者全体の十一・二%を占めるようになりました。

各組織ごとに女性研究者の割合を見ると、大学十九・九%、公的機関十一・五%、非営利団体八・八%、企業五・九%と、大学などに女性研究者が多くなっています。

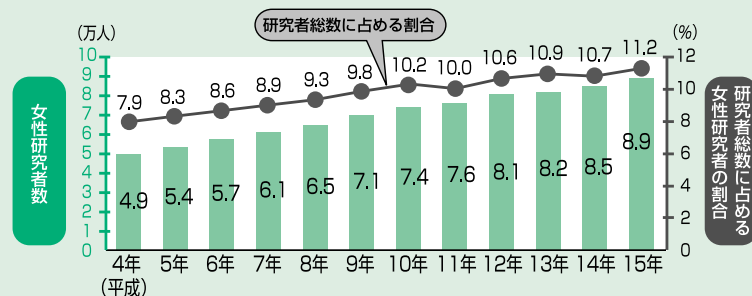
しかし、総務省の「労働力調査」によると、平成十五年の全就業者数六三一六万人に占める女性就業者の割合は二五九七万人（四

一・一%）となっており、この数字から見ると、研究開発分野での女性の進出は遅れているといえます。

文部科学省では女性研究者の比率を三割以上にする目標を掲げていますが、女性研究者には、結婚、子育てなどで研究の一時中断を余儀なくされることが多く、女性研究者が研究職を続けることの困難さを訴える声も大きくなっています。



■女性研究者数と研究者総数に占める女性研究者の割合の推移



注) 各年次とも人文・社会科学等を含む3月31日現在の値(ただし、平成13年までは4月1日)。
資料: 総務省統計局「科学技術研究調査報告」



女性が働く環境の向上を目指す女性研究者たち

つくば市の産業技術総合研究所にある「産総研女性研究者の会」。この会では、女性研究者同士の親睦、情報交換を進めながら、研究生活を続ける女性や、これから研究者への道を目指す女性へ向けたさまざまな活動が行われています。

そもそも成り立ちは、在京試験研究機関のつくばへの集中移転完了をきっかけに「女性の会」が生まれたことから。昭和五十八に産総研の前身である工業技術院「工業技術院女性研究者の会」になり、平成十三年に当会となりました。

一時減少が続いた女性研究者の現状を前にして、昭和六十年より当研究所の女性研究者たちの研究環境や生活環境を広く知らせるために、女子学生・院生に向けて見学会を実施。現在も就職セミナーや見学会において、女性見学者を対象にした昼食会を行っています。

現在、会員は一〇〇名ほど。会員有志が、随時、子育て支援への働きかけや、男女共同参画に関する懇談会への参加など、女性研究者の働く環境の向上へ向けた活動を行っています。

配偶者暴力 防止法

わかりやすく解説する

男女共同参画キーワード

ハーモニーナビ

配偶者からの暴力を受けた場合、どこに相談したらよいのでしょうか？



いろいろな機関で相談を行っています。
配偶者暴力相談支援センター
(茨城県婦人相談所)

支援センターでは、婦人相談員がカウンセリング、被害者及び同伴者の一時保護、保護命令制度の利用についての情報提供等で対応をしています。

警察

被害者の意思を踏まえ、配偶者および、元配偶者の検挙、指導・警告、自衛・対応策についての情報提供などの適切な措置をとります。

配偶者暴力相談支援センター
(茨城県婦人相談所)

電話相談

(匿名でも気軽に相談できます。)

029-221-4166 (相談専用)

時間 平日 9:00~21:00

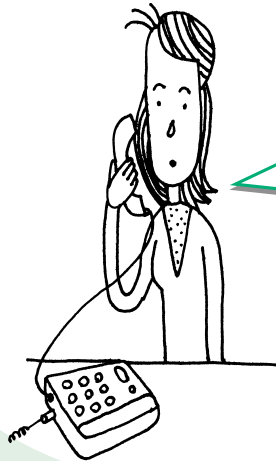
土日祭日 9:00~17:00

「とりあえず加害者から逃れたい」こんな時、婦人相談所があると聞きましたが？



各都道府県に必ず一つ、婦人相談所が設置されています。各種相談業務を行うとともに、配偶者からの暴力を受けた被害者の一時保護業務を行っています。

配偶者もしくは、元配偶者からの暴力を受けている人を知っている場合、通報できるのでしょうか？



暴力を受けている人を発見した人は、その旨を配偶者暴力相談支援センター、警察署に通報するよう努めることとなっています。(ただし、本人の意思は尊重されます。)

配偶者からの暴力を守る DV法が改正されました。

配偶者からの暴力は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。とくに経済的自立が難しい女性に対しての暴力は、個人の尊厳を損ない、男女平等の妨げになります。そこで平成十三年四月にDV法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)が制定されましたが、これまでの保護命令などでは対応できない事例が増えたこともあって改正法が成立。平成十六年十二月に施行されました。

現行法では元配偶者に対して保護命令を発することはできませんでしたが、離婚直後の時期に暴力の危険が高まるという現実や、離婚後も被害者が被ることが多い暴力は、婚姻中の暴力と同じであるという認識のもとに、裁判所が元配偶者にも保護命令を発することができるようになりました。

また、配偶者が被害者の子を連れ戻すことを防ぐために、被害者への接近禁止に加えて、被害者の子への接近禁止命令制度が創設されました。さらに、現行法では加害者の退去命令において、退去を命じられた住居の付近のはいは禁止されていませんでしたが、住居付近のはいかにも禁止されました。その退去命令の期間も二週間から二ヶ月間に拡大されました。

この他にも、被害者の自立支援や配偶者暴力相談支援センターの機能が市町村の施設でも可能になるなど、被害者の立場に立った改正が行われました。

結婚してこの仕事の大切さや面白みがわかってきました。



日本板硝子茨城販売株式会社 水戸支店
羽成 祐子さん
(はなり ゆうこ)

平成14年に入社。住器専任担当のレディ・インフィル・プランナー(リップ・住器専任担当)。昨年、社内結婚した夫も営業職で、仕事の悩みや喜びも共感できると思います。趣味はゴルフ。始めたばかりで、夫とコースに出るのが楽しみです。

日本板硝子茨城販売(旧ガラステック茨城)で、バス、キッチンなど水回りの住設機器の営業を担当している羽成さん。昨年の結婚を契機に、この仕事の大切さや面白さがわかってきたといいます。

「主婦の仕事を通して使い勝手や本当にいい商品とは何かが見えてきました。結婚をバネに張り合いが出てきたところです」

平成十四年に入社。そもそもこの会社を選んだのは、会社説明会で接した同社のリクルートを担当する女性社員が元気で輝いて見えたから。以前から女性の活用を積極的に進めていた会社の方針のもと、女性にとって働きやすい環境があると直感

したそうです。

「住設関係で女性の営業は少なく、珍しがられることもありですが、大工さんやガラス店の社長などベテランの方が、一人の人間として対等な話を聞いてくれることが嬉しいですね」

入社三年目で仕事の醍醐味も味わい始めた羽成さん。今年からは女性の後輩が配属されることになり、今度は仕事を教える立場にもなるといえます。

「自分自身がレベルアップして私を認めてくれた会社にもっと貢献したい。私が入社を決めたきっかけになった先輩のように、私も輝いた存在になりたいですね」

Ladies Life

県では、企業や団体等の理解と協力を得て、男女が働きやすい就労環境などを実現するために、積極的に事業所へ訪問し、男女共同参画の理念の普及を行っています(パートナーシップ普及事業)。今回は、平成16年度に訪問した企業の中から、活躍している女性をご紹介します。



茨城交通株式会社
播田實 久美子さん
(はたみ くみこ)

昭和57年に茨城交通に入社。運輸部運輸統括課教育担当。現在、観光バスガイドの教育を担当。秋シーズンにはガイドとしても勤務。8歳の長女と4歳の長男の母。ここ10数年テニスにはまっており、週1回はコートに立っています。

好きな仕事なら周囲を説き伏せても続けて欲しいですね

「ご自身も三年で一人前といわれるガイドの新人時代には、何度も会社の寮から夜逃げしようと思ったこと

返りはきつとあると思いますよ」

は厳しい世界ですね」

「あつたからといえます。」

茨城交通運輸部運輸統括課で、バスガイドの新人教育を担当している播田實久美子さん。五月の連休明けから始まる遠足シーズンでのデビューを控えて、新人たちを猛特訓中です。

「おじぎの仕方から始めて、それまでに茨城だけでなく関東一円の名所旧跡のことなどすべて覚えなければならず、徹夜の受験勉強のような状態になります。その間に自信をなくして脱落する人も出てくる。華やかなイメージもありますが、実際には厳しい世界ですね」

「お客様からまた一緒にいきたいなんていわれると涙が出るほど嬉しい。いつの間にかこの仕事が大好きになっていったんですね。教育という仕事は、その人ならではのよさを引き出して自信を与えること。やりがいを感じますね」

いばらき・わが街から



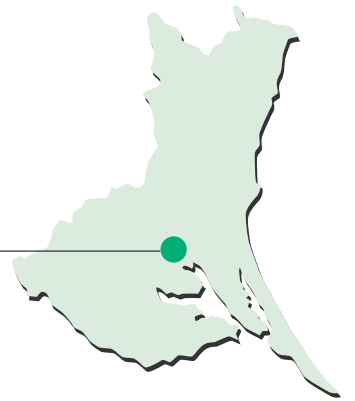
はらんきょうの会の朗読劇の後で、テーマごとに参加者と討論会を行いました。



男と女セミナー
「女性が単身赴任するとき」。



記録集「もえぎ」



[石岡市]
ISHIOKA
City

石岡市の女性の活動を 記録集に残す

石岡市では、「いしおか・ひまわりプラン」に基づいた事業として、「女性政策調査研究事業」を平成十二年度から開始。一般公募によるボランティア委員、女性史の専門家、編集アドバイザーからなる「石岡市女性政策調査研究会」を結成し、平成十三年度は「さみどりの刻」と名付けた記録集を刊行。平成十六年には、「さみどりの刻」のパートである「もえぎ」を刊行しました。

今回は、「教育」「文化」「社会参加」の三分野から、教育では、石岡和裁専門学校と各種教室、学校の変遷と女性管理職、現代の女性教師、PTA活動。文化では、文化・茶道、女の目で見える葬送・墓の変遷、農業文化。社会参加では、農村女性の小さな活動、女性農業士、保健師。養護教諭、薬剤師、女性の政治参加、女性と政治の十四編を収録。古い慣習などに立ち向かった石岡の女性たちの記録が、生き生きと記されています。

女性行動計画「いしおか・ひまわりプラン」を推進

平成十六年四月に石岡市 男女共同参画条例を施行

石岡市では、平成十二年に「いしおか・ひまわりプラン」を策定。平成二十一年度までの十年計画で、「男女平等の理念に立った社会づくり」などさまざまな施策を行ってきました。さらに、少子高齢化や国際化など社会情勢の変化に対応す

るために平成十六年四月に「石岡市男女共同参画条例」を施行しました。

また、平成十年に実施した「石岡市に住む女性のための生活と意識調査」で浮かび上がった女性のための相談窓口の必要性から、平成十三年に相談窓口を開設。そのほとんどがDVに関する相談だったために、平成十四年から女性相談員による「女性のための困りごと相談」の窓口を新たに開設。平

成十五年四月には相談室も新設されました。

昨年の「男と女セミナー」では、青森県八戸市東京事務所所長で、元八戸市男女共同参画室室長の風張知子さんの講演「女性が単身赴任するとき」や、はらんきょうの会による朗読劇「茨城弁で語る女性差別撤廃条約」などが開かれ、熱心な参加者を集めました。

お問い合わせ先

石岡市役所企画課女性行政担当

TEL 0299(23)1111(代)

「ハーモニーフライトいばらき2004」報告会が行われました

今年度で二十三回目を迎えた女性海外派遣事業「ハーモニーフライトいばらき2004」の報告会が二月十八日に県民文化センター小ホールで行われました。宇佐見恵子団長以下二十九名が平成十六年九月二十九日～十月九日までの十一日間、ドイツ、ノルウェー

、フランスの三カ国を訪問し、男女共同参画や環境・福祉・教育に関する取り組みなどについて、研修を行うとともに、ドイツでホームステイ、パリでは自分たちの足でまちづくりの様子を視察するなど、貴重な体験をしてきました。



ホストファミリーを招いての親善交流会

ハーモニーフライトいばらき2005団員を募集します。
派遣国/フランス・オランダ・スウェーデン(予定)
派遣時期/平成十七年九月二十一日(水)～
十月一日(土)(予定)
募集時期/四月二十日(水)～五月十八日(水)
募集人員/二十六人
応募資格、応募方法など詳細については
茨城県女性青少年課にお問い合わせ下さい。

TEL029(301)2178

テレノア社での研修の様子



視察先一覧

	視察先	概要
男女共同参画	男女平等センター	女性が積極的に政治や経済活動に参加しているノルウェーにおける男女共同参画への取組
	テレノア社(電話会社)	仕事と家庭を両立しながら働くことができるノルウェーの雇用場における取組
	パリ 女性の家	DVの被害を受ける女性を支援する民間団体
	フランタン社(デパート)	女性が働きやすい雇用環境整備を図っているフランタン社の取組
テーマ別	ヴェーラー校	ドイツ国民の高い環境への意識は課外活動などの環境教育による
	ゴミの行方プログラム(市内視察等)	ドイツの家庭や街でのゴミ処理視察、ゴミ分別は国民の意識が重要
	オスロ市環境局	「2003年持続可能な都市賞」を受賞したオスロ市の取組
	ヴィクター・ゴランツケアハウス	ドイツにおける高齢者介護は個人の尊厳を尊重
	オスロ市社会福祉局	児童、高齢者等多岐にわたるノルウェーにおける福祉の取組
福祉	オスロ市教育局	一人ひとりの能力に沿った教育に取り組むノルウェー
	女性大学	学業を中断した女性等の経済的自立を促進する
教育		
ホームステイ	ドイツ・フランクフルト近郊	
自主企画	○パリユネスコ本部 ○パリの街角でアンケート ○スーパーマーケット探訪 ○パリの町並拝見	

「ハーモニーフライトいばらき2004」旅行日程表
(ドイツ・ノルウェー・フランス11日間)

日次	月日(曜)	地名	現地時間	内容
1	9/29(水)	成田発 フランクフルト着	11:35 16:35	空路、フランクフルトへ 着後ホテルへ (フランクフルト泊)
2	9/30(木)	フランクフルト	終日	終日：テーマ別研究① ○福祉班 終日：ヴィクター・ゴランツケアハウス ○環境・教育合同班 午前：ヴェーラー校 午後：ゴミの行方プログラム (フランクフルト泊)
3	10/1(金)	フランクフルト ホームステイ先	終日	午前：フランクフルト市及び近郊視察 午後：フランクフルト近郊ホームステイ先へ 夕方：到着後フランクフルト近郊の各ホームステイ先へ (ホームステイ)
4	10/2(土)	ホームステイ先	19:00	終日：ホームステイ 夜：親善交流会 (ホームステイ)
5	10/3(日)	ホームステイ先 フランクフルト発 オスロ着	朝 13:40 15:35	空路、オスロへ 到着後、ホテルへ (オスロ泊)
6	10/4(月)	オスロ	終日	終日：課題研究① 午前：男女平等センター 午後：テレノア社 終了後市内視察 (オスロ泊)
7	10/5(火)	オスロ	終日	終日：テーマ別研究② ○教育班 午前：オスロ市教育局 午後：女性大学 ○福祉：環境合同班 午前：オスロ市社会福祉局 午後：オスロ市環境局 (オスロ泊)
8	10/6(水)	オスロ オスロ発 パリ着	朝 10:55 13:15	空路へ移動 空路、パリへ 到着後：課題研究② パリ女性の家 (パリ泊)
9	10/7(木)	パリ	終日	午前：市内視察 午後：課題研究③ フランタン社 (パリ泊)
10	10/8(金)	パリ パリ発	朝 20:00	自主企画研究 ユネスコパリ本部視察等 空路、帰国の途へ (機中泊)
11	10/9(土)	成田着	14:30	到着後解散

坂東市(旧岩井市)で

第2回「男と女ハーモニー大学」を実施しました

坂東市(旧岩井市)では、昨年に続き第2回目の「男と女ハーモニー大学」(岩井市・いわい女性フォーラム共催)を実施しました。

この講座は、男女共同参画の理解のために市民を対象としたもので、一年間に六回のカリキュラムを組んで開催。平成十六年八月二十八日(土)の入学式では、茨城県女性プラザの和田洋子館長が「男と女 輝いて生きるために!」の演題のもとに、男女共同参画に関する国内外の動きや各国の男女共同参画の状況と意識などをわかりやすく講演され、二回目以降はワークショップなどを行いました。

平成十七年二月十日(木)の修了式では、茨城県自然博物館の中川志郎館長が「男と女のハーモニー」動物にみる共同のヒント」と題し、動物からみた共同の子育てに関して「モアのある具体例を挙げて講演されました。そして、最後に受講生には男と女ハーモニー大学学長(旧岩井市長)から修了証が授与されました。参加者からは男女共同参画に関する多くのことを学ぶことができた大変好評でした。

今年三月二十二日に岩井市は猿島町と合併し、「坂東市」となりましたが、今後も講演会や研修等を重ね

て、男女が互いにその個性と能力を十分に発揮することができ、男女共同参画社会の実現をめざして啓発に取り組んでいきます。



男女共同参画の状況を講演する和田館長



修了式での中川館長の講演



熱心に聞き入る受講者

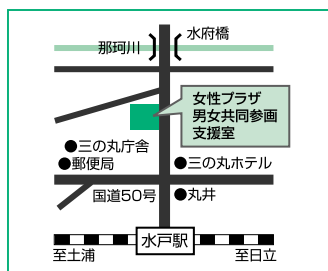
チャレンジするひとを応援します 「男女共同参画チャレンジ支援事業」

県では平成十七年度新規事業として「男女共同参画チャレンジ支援事業」を実施します。

この事業は、地域活動、起業、再就職など、さまざまな分野でチャレンジしようとする人に対して、各種情報の提供や相談支援などを行うもので、その窓口を女性プラザ男女共同参画支援室として水戸市三の丸の旧県職員会館の三階(一・二階は、いばらき就職支援センター)に設置します。

具体的には、「実力をつけてさらに上を目指したい」「新たな分野に活躍の場を広げたい」「また働きたい」など意欲をもって、新しい可能性を切り開いていこうという人を応援するために、コーディネーターや経験豊かなアドバイザー・相談員を配置し、チャレンジするための情報を分かりやすく提供したり、登録アドバイザーの派遣などを含めて実践的な助言・支援を行っていくものです。

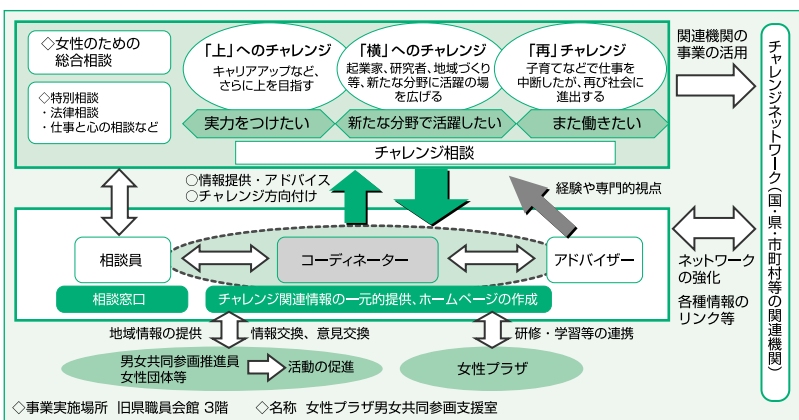
また支援室では、チャレンジに関する支援だけでなく、家族、夫婦、学校、職場での悩み事などや男女共同参画に関する苦情



5月からスタート(予定)

や意見などについて気軽に相談いただける「女性のための総合相談窓口」を設置するとともに、法律相談(弁護士)や仕事と心の相談(産業カウンセラー)などの特別相談もを行います。

皆様の様々な夢を実現させるために、この女性プラザ男女共同参画支援室をぜひ活用ください。





「水海道 千姫まつり」

4月10日(日)

茨城 時流 城

ひとひと 男と女



千姫と五人の男を描く華やかな歴史絵巻。
女性が主役、市民が主体の新しいお祭り

千姫の菩提寺がある水海道市で開かれる「水海道千姫まつり」。
「千姫となごみの街」をまちづくりの旗印にした水海道市のイベントで
女性を主役に据えた華やかな一大ページェントが市民の心をひとつ
にしています。

江戸幕府二代将軍、徳川秀忠の長女、千姫。7歳で豊臣秀頼に嫁ぎ、大坂夏の陣の落城前夜に大坂城を脱出するなど、波瀾万丈の人生を送った姫君です。

水海道市豊岡町にある弘経寺が千姫の菩提寺であることから、千姫の生誕400年にあたる1997年に始まったのが「水海道千姫まつり」。女性をイベントの主役に添えた市民主体の祭りとなっています。

古くから水運で栄え、千姫をはじめ長い歴史に彩られた水海道市は、中心市街地の活性化を図るために市の将来像を「千姫となごみの街 みつかいどう」とし、「人にやさしいもてなし・こだわりのある歴史のまちづくり」の一環としてこの「千姫まつり」に力を入れています。

昨年是一日のイベントで3万3千人

の人出を集めたこのお祭り。圧巻は千姫さま行列で、今年は千姫さまの生涯をテーマに、「千姫さまと徳川家康」「千姫さまと豊臣秀頼」「千姫さまと本多忠刻」「千姫さまと照誉了学上人」



「千姫さまと徳川家光」という五つのシーンで、千姫と千姫にまつわる5人の男の物語を描きます。優美な歴史絵巻の主人公となる千姫さま役は一般から公募、今年は5人の千姫さまが、過酷な歴史を生きた姫君の生涯を華やかに演じます。稚児役を含めて、局、侍所、旗持など200名以上の女性が参加する大行列は、まさしく女性の美を全面に押し出したページェントとして人気を集めています。



千姫さま行列

「小学生のときに弘経寺で千姫のお墓を写生したことがありましたが、これほどのドラマがあった女性とは知りませんでした。歴史の重みや、祭りを通じて市民の心がひとつになれることに大感動。今まで気づかなかったわが街の素晴らしさをあらためて教えられた気がしました」と言うのは昨年の行列で千姫に扮した宮本みのりさん。今度は千姫以外の姫君を演じてみたいと、わが祭りへの抱負を熱く語ってくれました。



女性護衛隊「ビバーチェ」のマーチングパレード

お問い合わせ

水海道市役所商工観光課
TEL0297-23-2111

CONTENTS

特集

人間だから

知の最前線を担う
女性研究者たち

独立行政法人産業技術総合研究所 研究員
山室 真澄さん2
里山建築研究所 代表 居島 真紀さん4

いばらきニューウエーブ6
男性研究者に比べて少数派の女性研究者
ハーモニー ナビ7
配偶者暴力防止法
Ladies Life8
日本板硝子茨城販売(株) 羽成 祐子さん
茨城交通(株) 播田 實 久美子さん

いばらき・わが街から9
石岡市
情報コーナー10
時流(男と女)12
千姫まつり